2018年(平成30年)
3月20日 第349号

あんしん Vol 349

発行 株式会社 安藤プロパン

〒955-0095
三条市代官島川原271
TEL. 34-7656(代)
FAX. 35-6326

あんしん取材班が行く

バスセンターのカレー〈新潟市万代シティ〉を訪ねて

新潟市万代にあるシティビル、通称「万代シティバスセンター」に『バスセンターのカレー』が大人気ということ。3月13日(火)、午後3時に到着。場所は「万代シティ」の1階バスの屋内ロータリーの一角。「安い！早い！うまい！」立喰コーナー「そば・うどん・カレー」と。内照式アクリル看板が隅をあんどん照らしている。

食券で「カレー(ミニ)」と「そば」を注文。

8〇円と、430円。見たためは黄色い昔ながらの小麦粉入りのカレーライスといったところ。ひとくちに含むと、やさしいまろやかなカレーの食感が口いっぱいに拡がる。やや辛めという評判ではあるが、食べている時はさほど辛く感じない。レストラン・喫茶店等で食べるカレーとは一味違う。家庭の昔懐しい味、お袋の味。ふくろのカレーだ。食べ終わった後にジワーッと辛さが伝わってくる。水を一杯飲み干す。この辛さが人気の秘密なのだろう。食べ終った後に又食べたいというそんな気にさせる。

業界では常識的な調理方法なのであろう。「万代そば」の運営は「万代シルバーホテル」なので、味は抜群、スピード、そば・うどんグの数を初めトッピングの数といい、牛丼までバラエティに富んだメニューの数々。しかし、何といっても一番人気はカレーで、午後3時を過ぎても次に客がくるにも関わらず、次々にカレーを食べている。

万代シルバーホテルによると、カレーを出すようになったのは平成どのころ初め頃。元々はうどん、そば、カレーライスとしてスタートしたが、カレーを売っても良いのではかけという。

イン470円とワンコインでおつりが出て、豚肉とタマネギが入ったレトロな黄色いルーが特徴で、「お母さんの作ったカレーを思い出す」などと言われ人気が出る。歌手の小田和正さんやお笑いコンビ・雨上がり決死隊の宮迫博之さんもカレーのファンで、仕事で新潟市で来る度に訪ずれるとブログに投稿している。

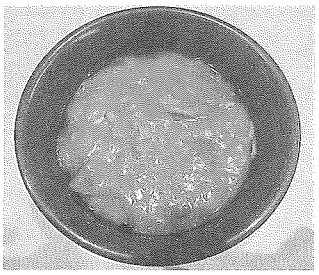
新潟交通商事(土産品の企画などを手掛ける新潟交通の子会社)は「出張で新潟に来てバスセンターのカレーを食べた人に家族の分も土産に買ってもらいたい」と、このカレーをレトルト『新潟・万代シティバスセンターのカレー』を企画し、2009年(平成21年)11月から、万代そば、新潟駅、新潟空港、県内の高速道路の主なサービスエリア・パーキングエリア、県内の主な道の駅、新潟交通商事が運営するオンラインショップ「くれよんライフ」東京「表参道・新潟館ネスパス」で販売されている。

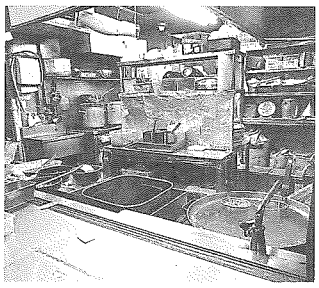
三条市でも近年「カレーラーメン」を新潟のB級グルメで発信している。新潟で古くから愛されてきたカレーの文化は、開港で活気づく新潟を訪ずれたフランスの曲馬団に隨行していたイタリア人青年コックによって産み出されたといわれている。

朝8時から開いているというのも魅力の一つ。一日中、夜7時まで休まずに対応する。イスは設置していない。立ち喰いスタイル。多い日は一日に4〇〇杯も出る日もあるという。いつ行っても食べれる。食券販売機で食券をカウンターに出して、2〜3分で注文品を提供してくれる。忙しい、時間の無い人には有り難い。バスセンターのカレーは新潟名物だ！

▶バスセンターの万代そば

▶カレーミニ 380円


▶カレーそば 430円


▶厨房(意外と広い)

▶カレーのサンプルケース

▶いつでもお客さんがいる

今回命名された大寒波の『平成30年豪雪（北陸豪雪）』

社長・安藤幸広

2018年1月10日頃から山陰・北陸・東北・北海道の日本海側を中心に度々大寒波が襲来し、高速道路・一般国道・JRなど交通網がストップ。人や車や列車が長時間に渡り立ち往生するなどの事態が発生し人命に関わる災害レベルになってしまった。気象庁は今回の豪雪を平成30年豪雪（北陸豪雪）と命名している。日常の市民生活や企業活動も一時停止し生鮮野菜などの価格も高騰した状況になったり、気象庁からは『命に関わる危険が迫っています。家から出ないで下さい』とのアナウンスも発せられた。読者の皆様も例えば、大雪のため先ず早朝に家や車庫前などの降り積もった雪やゴリゴリ雪の除雪をする↓早めの出勤も積雪による交通渋滞にはまり遅刻がちで会社や職場に出勤する。会社に到着しても会社に入ることが出来ず総出で会社構内を除雪する↓会社の仕事も終わる頃の夕方、更に降り積もった雪のためにまたも会社や自家用車の除雪をする↓会社から自宅まで積雪による交通障害のため予想以上に帰宅時間がかかった挙句に↓またも夜に家の周りの除雪をする↓また翌日早朝自宅の除雪をする↓会社にも遅刻状態で会社に着いたら会社の除雪をする↓夕方また会社の除雪をする↓やっと家に着いてまたまた家の除雪をする↓また翌朝家の除雪をする↓いつまでこの繰り返しが続く日々なのか？と思う疲労困憊の日々！だったのでは ない かと思います。特に狭い市道では除雪が充分にされずスタックして動けなくなった車も多数見かけた。実際に助けを求められてもシャベルを積んでいない車もあったりして？。同時にインフルエンザも大流行した。

総じて大変だった今回の平成30年豪雪。しかしさかのぼるとまだ今回の豪雪はまだ関脇レベルかも！。歴史に残る、あるい は記憶に残る豪雪の記録（表1）を見ていただきたい。

豪雪時の最大積雪深

	長岡（新潟県）	金沢（石川県）	福井（福井県）
昭和38年1月豪雪（1963年）	318cm	181cm	213cm
昭和56年豪雪（1981年）	102cm	125cm	196cm
平成18年豪雪（2006年）	110cm	55cm	95cm
平成30年豪雪（2018年）	135cm	87cm	147cm

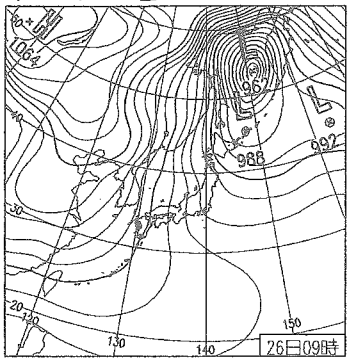
※気象庁のデータをもとに作成　※平成30年豪雪は2月7日までの記録

なんたって昭和38年1月豪雪はさすがに凄い！。記録を垣間見ると1963年（昭和38年）1月から2月にかけて新潟県から京都府北部の日本海側を豪雪が襲い、気温も低く日照も極端に短かかったため降雪後の降り積もった雪も解けず最大積雪深は新潟県長岡市で318cmを記録、石川県金沢市181cm、福井県福井市213cmまで未だに記録は破られていない。当時の被害は死者行方不明者231名、住宅の全半壊約6,000棟、列車の運休本数は19,500本、政府は自衛隊に災害救助等要請し述べ37万2,000人の自衛隊員が投入され約1ケ月間に渡る救難活動や除雪作業に投入された。安藤も38豪雪の記憶は子供ながら一時、家の2階から出入りして電柱の電線を感電しないようにと注意しながら恐るまたいで歩いていた記憶がある。

そして豪雪とは「著しい災害が発生した顕著な大雪現象」（気象庁の用語説明引用から）と定義されているが、豪雪による災害として、

①「雪崩」……雪崩も表層雪崩と全層雪崩の2種類がある。大雪が降った後は警戒箇所や傾斜地には近寄らない。

②「交通障害」……高速道路や一般道の通行止め、スリップ事故の発生、車両の立ち往生やスレ違い困難、雪の壁により前方の安全確認が不果実になる、暴風雪によるホワイトアウト発生（吹雪で周囲が真っ白になり前方の様子が全く分からなくなる）。漁港でも小型漁船に積もった雪で転覆する事も。空港も暴風雪や降雪で滑走路や空港が閉鎖になり航空便は欠航。ちなみに新潟県内の国道除雪能力は1日当たり30cmまでの降雪が限界と言われている。何と、新潟市内では8cm程度



▶1月26日(金) 厳しい寒さ続く
・東日本を中心に日中も強く冷え込み全国の約半数の地点で真冬日。秋田・青森県は全て、北日本はほとんどの観測点で真冬日。最低気温さいたま-9.8℃、埼玉県越谷-7.5℃で史上1位。

③「家屋の倒壊」……屋根に2mの雪が積もると1㎡当り600kgもの重さになり非常に危険な状態になる。特にひさし部分は過重が掛かり易い。

④「除雪作業中の事故」……雪下ろし中に屋根からすべり落ちて怪我をしたり死亡したり、排雪用流雪構や側溝に落ちたりして怪我や事故などが発生。毎年多くの犠牲者が出ている。

⑤「歩行中の転倒による怪我」……骨折や怪我、雪国仕様の靴底でないためや、こんな時でもスマホを見ながら歩いている人が何と多いことか？。スマホ見ながら「ながら歩き」は怪我必然となる。

大寒波の年は地震や火山噴火、大型の台風も襲来する事が多いとの統計もあり今後も気象情報には留意し防災を心がけた日々を送る必要がありそうだ！。

〈次回に続く〉

〈38豪雪の写真〉

今月のクイズ

Q 宴会・パーティで受ける芸です。何人かを並ばせて、「さあ、何でも私のマネをしてください」手を上げたり、下げたり、アッカンベーをしたり……。でば絶対に他の人がマネできないことを何か1つ考えてください。

Vol.347の答え：①ききょう

▼オモテ
62 〒955-0095 三条市代官島 川原291 (株)安藤プロパン あんこんクイズ係

▶ウラ面に・クイズの答・氏名・年令・住所・あっぱめ・メッセージをかいて下さい。

しめきり 5月10日

▼当選者▼池田亜希さん▼鈴木真さん▼中野淳さん▼田野和子さん▼佐藤百合さん